

セグロウリミバエ (*Bactrocera tau*) とは

【世界における発生地域】

中国、台湾、インド、東南アジア等

【主な寄主植物】

ウリ科（ニガウリ、ヘチマ等）、ナス科（トマト、トウガラシ等）等の生果実

【被害状況】

幼虫が果実に寄生すると腐敗・落果する。本種が最優占種である環境下での調査において、被害果率が80%を超えたとの報告もある。

【調査方法】

誘引剤を用いたトラップ調査。雄成虫は誘引剤（キュウルア）に誘引される。

【我が国の状況】

1 植物防疫法における検疫有害動植物に指定されており、既発生地域からの寄主植物の輸入検査において本種が発見された場合、輸入された荷口は廃棄又は返送となる。

なお、本虫の発生地域は、近縁のミバエ発生地域と重複していることから、ほとんどの寄主植物は輸入禁止。

2 本虫は過去に2度（1998年、2003年）、沖縄県の調査用誘引トラップに誘殺されたことがあるが、寄生果実が確認されるなど、国内における発見は、今回（2024年）が初めてとなる。

【防除方法】

1 雄除去法（誘引剤と殺虫剤を染み込ませたテックス板による防除方法）。ただし、本虫は、他のミバエ類と異なり、強力な誘引剤がないことから防除効果は低い。

2 発生国では、寄主果実の除去やベイト剤（樹木に散布し、殺虫する毒餌）の散布等により防除。



成虫



幼虫